

# 地方都市視察報告書

本庁舎対策等特別委員会

1 実施日  
令和6年10月24日（木）

2 視察地 新潟県長岡市

## 【市の概要】

- (1) 面積 891.05 km<sup>2</sup>  
(2) 人口・世帯数（令和6年10月1日現在）  
住民基本台帳人口 255,856人  
住民基本台帳世帯数 110,362世帯



- (3) 長岡市は、1906年（明治39年）に市制を施行し、近年では、2005年（平成17年）以降、周辺の10市町村と合併し、現在の市域となる。

新潟県のほぼ中央に位置し、日本最長を誇る信濃川が市内中央を流れ、市街地から雪深い山間地のほか、日本海に面するエリアまで、広大で豊かな自然環境に恵まれており、新潟県内では、新潟市に次ぐ第2位の人口を有し、中越地方の経済の中心地となっている。また、米や日本酒などの多くの名産品や、日本三大花火の一つである「長岡まつり大花火大会」は全国的にも有名である。

近年では、「アオーレ長岡」や「フェニックス大手」、「ミライへ長岡」など、長岡駅周辺の再開発が進み、さらなる街の活性化に取り組んでいる。

3 視察項目・内容  
新庁舎整備について

4 視察参加者

## 【委員】

伊藤陽平委員長	志田雄一郎副委員長	時光じゅん子委員
石川孝一委員	かなくぼなな子委員	高月まな委員
渡辺清人委員	有馬としろう委員	沢田あゆみ委員

## 【随行】

議会事務局次長	高橋 美香	
議会事務局議事係	黒木 明子	設楽 拓也

5 視察結果・所感

長岡市で、市役所本庁舎やアリーナ、屋根付き広場が一体となった複合施設「アオーレ長岡」について視察を行った。「アオーレ長岡」は、2004年（平成16年）の新潟県中越地震を契機に、耐震性の不足や老朽化した施設の問題を解決するため整備された施設で、市民参加と交流の拠点として設計された。施設内には市民が利用しやすい総合窓口が設置され、ワンストップで行政手続きが可能な体制が構築されていた。

また、多目的利用が可能な環境で、スポーツイベントやコンサートなどが開催される

ほか、一般利用は無料で提供されている。若者にも利用され、市民活動の中心的な役割を担っていた。

特に注目すべきは、市議会の議場が1階に設けられた「開かれた議場」の設計である。議会開催時以外はイベントやコンサート会場として活用されていた。

委員からは、新宿区にも共通する課題に触れながら、長岡市の具体的な運用方法について質疑が行われた。市民が自由に利用できるスペースの提供など、新宿区では実施していない取組についても議論が深まった。長岡市の「アオーレ長岡」は、行政機能の効率化に加え、市民交流の場としても大きな可能性を秘めており、既存施設を活用した市民参加の促進や行政サービス向上に向けた施策として大変参考になった。

## 6 主な質疑項目

- (1) 市役所機能と市民活動の拠点となるシティーホールが一体となった複合施設の設置とその波及効果について
- (2) 市役所機能をあえて「アオーレ長岡」と長岡駅周辺に分散配置したことについて
- (3) 市役所機能等の分散配置による市民交流等の人的効果について
- (4) 議場を庁舎の1階に配置した経緯とその後の「開かれた市議会」を目指した市議会の新たな取組及び市民の市議会に対する関心度について
- (5) 人口減少と新庁舎等の後年度のランニングコストについて
- (6) 新庁舎等の運営に際しての環境への配慮と二酸化炭素排出量について
- (7) 新庁舎整備にあたっての市民意見の反映について
- (8) 「アオーレ長岡」の運営事業者（NPO 法人ながおか未来創造ネットワーク）と市との連携について
- (9) 施設利用のための予約システムについて
- (10) 「アオーレ長岡」のアリーナ施設を活用した地域密着型プロスポーツチームとの街づくり包括連携協定締結による市民の交流及び経済効果について

## 7 その他

### 【共同理事者】

総合政策部 本庁舎対策等担当課長 楠原 裕式



「アオーレ長岡」外観



議場の視察